

平成三十年度 入学試験問題

国語

第二回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから七ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

問二——(2)「写真を整理すること」が、「分類できないもの」と言えるのはなぜですか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 分類するための区分けがどんどん細かくなってしまい、そのことからの評価が下がってしまうから。

イ 一つの写真が二つ以上のアルバムにあてはまるとき、コピーして入れなければならぬから。

ウ 複数の区分けのどれにでもあてはまるため、どのアルバムに入れたらいいか分からないから。

エ 写真に写った友人も山登りもキャンプも自分の大切な経験なので、どれか一つを選ぶルールがないから。

問三——(3)『木を見て、森を見ず』状態」とありますが、どのような状態ですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問四——(4)「このことばからさらに一歩進むことが、『わかる』ためにも重要だ」とありますが、筆者はどのような状態が「わかる」状態だと考えていますか。解答らんに合うように、本文から九字で抜き出さなさい。

九字 を理解できている状態。

問五——(5)『科学』は、わかりにくくなって当然」とありますが、なぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問六 A D に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア つまり イ まさに ウ たとえば エ 反対に

問七——(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問一——(1)「世の中のことながら何でもうまく分類できるとは限りません。」とありますが、それはなぜですか。解答らんに二行以内で答えな

さい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 去年の夏、友人と山に登ってキャンプをしたときの写真を分類する場合、自分と友人とでは、印象も記憶も全く異なるため、二人とも納得できるようなアルバムに分類することは不可能である。

イ 人間が何かの説明を理解できないというのは、言葉の意味自体を理解できないという状況よりも、ものごとの関係性や、結論として何が正しいのか、なかなかつかめない状況の方が多いためだ。

ウ ある部分はカレーの味がしたり、ある部分はパンの味がしたりするカレーパンのように、その時々に応じて性質が変化してしまうものが存在するため、世の中のことがらが何でもうまく分類できるとは限らない。

エ コンピューターや自動車に詳しい人にとって、聞いている人には細かすぎて必要のない話題こそが最も重要なことであるため、初心者には欠かせない基本の話題を省かなければならなくなる。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

95

90

85

80

75

70

65

130

125

120

115

110

105

100

問一 — (1)「銚子の町よりさらに辺鄙なところ」とありますが、それにはどのような事情があったと母は考えていますか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問二 — (2)「ウマが合う」とありますが、動物を使った次の一〜五の成句の意味を、後の「意味」ア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 犬も歩けば棒に当たる 二 豚に真珠
 四 猿も木から落ちる 五 能ある鷹は爪を隠す

〔意味〕

ア 本来に能力のある人は、それを人に見せびらかしたりしないものだ。

イ どんな名人でもときには失敗することがある。

ウ どんなによい物でも、値打ちを知らない者には、役に立たない。

エ いくら言ってもきかせても、ききめがない。

オ 出歩いていて、思わぬ幸運にあう。

問三

(3) に入れるのにふさわしい漢字二字の言葉を答えなさい。

問四

— (4)「これにもどう心えていいのかわからず、ぼくは困惑を隠し」とありますが、「ぼく」が困惑したのはなぜですか。次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」が転校してまだまもないうちから佐丸と友だちになることができたにも関わらず、単に転校生が珍しいだけだと決めつけられてしまったから。

イ 「ぼく」は、銚子で出会った友人や太平洋の素晴らしい眺めが気に入っているにも関わらず、母に不自由な生活だと決めつけられてしまったから。

ウ 「ぼく」は、銚子に引越してから母に対して誇れるようなことは何一つしていないにも関わらず、自慢の息子で誇らしいと決めつけられてしまったから。

エ 「ぼく」は、明るく元気に振る舞うことでようやく認めてもらえたのに、単に周囲の人たちが親切なだけだと決めつけられてしまったから。

問五

— (5)「けれど今日に限って何も出てこない。」とありますが、母が、銚子の人には何も送らなかつたのはなぜだと考えられますか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問六

— (6)「渾身の一球が、難なく打ち返される。」とありますが、どういうことですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問七

— (7)「A」～「E」に当てはまる語を次のア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア どんどん イ うろろうろ ウ わくわく
 エ きらきら オ ちょこちょこ

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母は、「ぼく」が父のためを思い、自分を犠牲にして銚子への赴任についてきたと考えており、もうこれ以上我慢する必要はないと考えている。

イ 妹は、「ぼく」が引越してからまだ間がないにも関わらず、たくさんの友だちを作った「ぼく」のことは見直し、自分も一緒に住みたいと考えている。

ウ 「ぼく」の友人である宮本は、人が良くて、根っこの部分がほんとうに優しい人物であり、「ぼく」が一刻も早く銚子になじめるよう学級で働きかけてくれた。

エ 「ぼく」の父は、自分の我儘で「ぼく」を銚子まで連れてきてしまったことを深く後悔しており、一刻も早く東京に帰らせたいと考えている。

